

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## 認可外保育園「GCC Kidsインターナショナルスクール」における道徳性の育成

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2024-03-22 キーワード (Ja): 認可外, 保育園, 道徳性, ジョリーフォニックス, クリル キーワード (En): 作成者: 吉田, 武男 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学短期大学部
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/0002000162">https://doi.org/10.18956/0002000162</a>

## 認可外保育園「GCC Kidsインターナショナルスクール」における道徳性の育成

吉 田 武 男

### 要 旨

本研究の目的は、幼児期における道徳性の育成に資する研究の一環として、日本のグローバル化された幼児教育施設の実践について調査し、グローバル化社会に適う道徳性の分析枠組みを見出そうとするものである。その第1歩として、日本の就学前教育施設の中から、未来志向的な保育・教育施設を例として1つ選び、その特徴から道徳性を浸透させた「基本的な生活習慣」の形成の斬新な方法を探ることとした。そこで、その1つの事例として、大阪市の認可外保育園「GCC Kids インターナショナルスクール」を研究対象に選出し、主に観察およびインタビュー調査を通して研究を進めた。その結果、この認可外保育園の保育・教育の理念と実践から、総合的な道徳教育の在り方の重要性とともに、道徳性の分析枠組みの手がかりを見出すことができた。

キーワード：認可外、保育園、道徳性、ジョリーフォニックス、クリル

### はじめに

本研究の目的は、幼児期における道徳性の育成に資する研究の一環として、日本のグローバル化された幼児教育施設の実践について調査し、グローバル化社会に適う道徳性の分析枠組みを見出そうとするものである。

現行の『幼稚園教育要領』(2017年)を詳細に読み進めていくと、総則の「第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」において、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領(2017年、2018年改訂)で示されている三つの資質・能力が幼児期の発達に合わせて記されるとともに、小学校の各教科を念頭において考えられた5領域(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」)を基に作成された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として「10の姿の視点」が示されている。そこには、就学後の学校教育を基準にして、小学校のあり様を固定的に捉え、小学校入学後もギャップが起らないような資質・能力を準備しておくことが重要視され、幼児期の教育は小学校教育に連続的に接続する前段階として見なされているように思われる。もちろん、このような見方は、一方では子どもの教育・保育の質保証を図り、子どもを学校に適応させるために大切にされなければならないが、他方ではあくまでも社会化装置としてのいまの学校教育の現状を主な基準にして考えられ

てしまい、乳幼児から成人に至るまでの人間形成全体を見通した人格形成を柱にして構想されているとは言えないのではないか。現行の『幼稚園教育要領』（2017年）においても、道徳性や規範性の育成に関して、小学校教育への連続的な接続を念頭に置いた「道徳性の芽生え」という曖昧な表現が従来から使い続けられ、幼児期の特有な道徳教育が明確に示されていない。特に、『幼稚園教育要領』（2017年）と同時期に、『保育所保育指針』と『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』も改められたようになり、その結果、幼稚園教育の内容が保育園やこども園の3歳以上の教育・保育にも大きく影響を及ぼすことになった。その影響は、どの就学前教育・保育施設に通っても教育・保育の質が保証されるという意味では有意義であろうが、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領（2017年、2018年改訂）で強調されている三つの資質・能力の考え方、つまり資質能力主義の風潮が、どの就学前教育・保育施設にも画一的に広まってしまうと、そもそも「道徳性は資質・能力に含まれるのか」、別の言い方をすれば、「道徳の学びは国語や数学などの学びのように知識及び技能の学びに還元できるのか」というような人間形成の根本的な問いをはじめ、乳幼児から成人に至るまでの人間形成全体の基礎になる幼児期特有の人格形成の実践が軽ろんじられるという危惧の念も抱かされてしまう。今こそ、もう一度、現時点で世界各国に1000校以上の姉妹校をもつシュタイナー学校の創始者シュタイナー（Steiner,R.）の「道徳的衝動を自分の中で正しく展開できるように子どもを次第に導いていくこと、それが最大にして最重要な教育課題である」「民衆学校（小学校－引用者注）に入学してくる子どもは、生活上の道徳的基本傾向をすでに形成してしまっている」「教育者として7歳までの時期に怠ったことは、決して後になってからは取り戻せない」などという言葉を思い返すことが、重要ではないだろうか<sup>1)</sup>。

そのような問題意識を基礎に置いて検討すると、日本の就学前教育・保育施設の中でも、小学校の教育との連携の強い幼稚園ではなく、むしろ保育的な特徴を強くもった保育園に、その保育園の中でも小学校の進学準備だけでなく、乳幼児から成人に至るまでの人間形成全体を視野に入れた特徴のある保育園に着目し、その実践を手がかりにして、人間形成全体の基礎になる幼児期の人格形成、つまり道徳教育のあり方を探究することは重要かつ有意義である。さらに付け加えるならば、これからの将来の異文化社会における価値の多様化を展望するとき、幼児期において日本の文化とともに、異文化も体験できるようなグローバル化した保育園を研究対象にすることが、将来の異文化社会を視野に入れた人間形成全体を見通した道徳教育のあり方を探究するうえで、より有益であると考えられる。しかし、幼児期における道徳教育に関する本格的な先行研究それ自体はきわめて少ない状況にある。特に保育園における道徳教育の先行研究は、筆者の管見した限りでは、皆無と言ってもよい状況であることをかんがみ、本研究はその第一歩として1つの保育園を対象として行われたものである。

そこで、本研究では、そのような保育園の1事例として、我が国の学術研究の対象として

まったく取りあげられていない、大阪市西成区に設立された認可外保育園「GCC Kids インターナショナルスクール（以下、「GCC Kids」と略する）」を研究対象に選出し、主に観察およびインタビュー調査を通して研究を進めることにした。本研究においてその保育園を1事例として選出した理由は、主に次の2つの点で、「基本的な生活習慣」の下位概念を見出したうえで、研究の枠組みを作成するという目的を達成するには適切な最初の一助となる、と考えられたからである。1つは、認可外保育園のために広い地域からの幼児を入所させられるとともに、認可保育園よりも規制が弱いことを活用して、特徴的な教育・保育がかなり自由に行われているからである。もう1つは、インターナショナルスクールにおいて国籍の違う子どもたちが交流することになる縮図は、次世代のグローバル化した社会の先駆けを象徴しているからである。この目的を達成するために、本稿では、まず認可外保育園としての「GCC Kids」の概要について説明する。次に、「GCC Kids」の保育・教育の実践の特徴について紹介・解説したうえで、その実践から紡ぎ出せる道德性の育成について考察する。

## 1. 認可外保育園としての「GCC Kids」の位置づけと現状

ドイツのフレーベル（Fröbel,F.W.A.）によって1840年に世界で最初の幼稚園（Kindergarten）が設立され、日本では1876年に設立された東京女子師範学校附属幼稚園が最も古い幼稚園とされている。それに対して、保育園は、一般的には、フランスのオーベルラン（Oberlin,J.F.）によって1779年に設立された幼児保護所が世界で最初の託児施設であり、日本では1890年に赤沢鐘美・なか夫妻によって新潟静修学校に託児所を開設したのがはじまりとされている。

日本では、1947年に児童福祉法と学校教育法が公布されるまでは、就学前の子どもたちは厚生省所管の託児所（保育園）と文部省所轄の幼稚園とに分かれて入っていた。概して言うと、託児所（保育園）は低所得貧困によって母親が働かなければならない家庭の乳幼児だけが入り、幼稚園は、生活にゆとりのある家庭の幼児が入っていた。ところが、時代が進むにつれ、どちらの就学前教育・保育施設においても、さまざまな課題が次々と発生し、その解決策が講じられてきた。そのような状況の中にあっても、託児所（保育園）の方が幼稚園に比べてその時代状況によってより複雑で困難な課題を抱え続けてきた。特に、戦後の経済復興や経済成長に伴い、働く母親が増加し、急増する多様な保育ニーズに認可保育園の設立が追いついてこなかった。その結果、現在においては、子どもを保育する場所として、大きく認可保育園と認可外保育園が存在することになっている。したがって、日本におけるこの二つの存在は、保育・教育の事由によるものではなく、経済的および政治的事由によるものであると言える。

認可保育園は、児童福祉法第39条に規定されている児童福祉であり、「保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする施設」である。つまり、認可

保育園は、児童福祉法に基づいて国が定めた設置および運営に関する基準を満たした施設である。それに対して、認可外保育園は、認可外保育施設指導監督基準を満たした施設であるものの、日々保護者の委託を受けて乳児や幼児を保育する施設のうち、児童福祉法や「就学前の子どもに関する教育、保育の総合的な提供の推進に関する法律（認定こども園法）」による認可を受けていない施設である。したがって、認可保育園と認可外保育園の大きな違いは、事業目的や設置・運営基準にあり、概して言えば認可保育園は認可外保育園に比べて保障されたものになっている。しかし、認可外保育園にも、いくつものタイプがあり、そのタイプによって施設の様子もかなり違っている。認可外保育園の主なタイプとしては、院内保育園、企業主導型保育園、事業所内保育施設、居宅訪問型保育（ベビーシッター）、ベビーホテル、幼稚園類似施設や幼児教育を特色とした施設があげられる。そうした区分を当てはめるならば、「GCC Kids」は、認可外保育の中の幼稚園類似施設や幼児教育を特色とした施設であると言える。

乳幼児数は、2023年9月末の時点では、日本籍31名、外国籍26名、総計57名である。施設・設備について言うと、「GCC Kids」は6階建ての鉄筋コンクリートの3階にあり、そこには保育室が5室、遊戯室が1室、調理室が1室、保健室が1室、トイレなどが設けられており、面積は全体で568.64㎡である（図表1を参照）。認可外保育の基準が1.65㎡/人であるから、十分な広さが確保されていると言えるが、それ以外にも、屋上には、子どもたちが活動することができる人工芝のスペースに、抗菌砂を使用した安心して遊べる砂場とともに、自分たちで野菜を育て、収穫し、ランチの時にみんなで食べる作物を生産するという畑も設けられている。広さとしては、244㎡のプレイスペースが用意されている（図表2を参照）。その広さを活用して、特徴ある保育・教育の実践が行われている。スタッフは、2023年4月1日の時点で、園長1名、副園長1名、保育士（常勤）4名、保育士（非常勤）1名、英語教員・子育て支援員（常勤）1名、英語教員・保育補助（常勤）5名、保育補助（常勤）1名、事務（常勤）1名、給食配膳1名、スクールバス運転手2名、＜外部講師＞体育講師（非常勤）2名、和太鼓講師（非常勤）2名である。

このような状況において、現在、「GCC Kids」は、「認可外」の保育園として運営されているが、設立された2019年4月1日には、子ども1名とスタッフ8名であったという。この4年間で「GCC Kids」は、「認可外」の保育園として現状まで発展してきている。もちろん、「認可外」の保育園に対しては、研究者からの否定的なきびしい見方や批判があるが、「GCC Kids」は、これからも「認可外」の保育園として運営していくようである<sup>2)</sup>。

この運営に関して、有吉園長に考えを質問したところ、「認可外」にこだわる大きな理由が二つあるという。有吉園長の回答に即してまとめると、一つは、認可保育園になると、申し込みが保育園のある自治体になるために、子どもや保護者の顔もわからないまま、形式的に送り込まれてくるからである。それでは、子ども一人ひとりの個性や特徴もわからないだけでなく、保護者の考えを十分に聞いて理解し合っていない状態において子どもが入園させられてしまう

ために、「GCC Kids」の特色ある実践が生かされないどころか、誤解や妨害を受けたりしかねないからである。もう一つは、「GCC Kids」の特色ある実践に賛同して子どもを入園させたいと保護者が希望されても、保育園のある自治体の地域からの子どもが入園することになるために、地域外であるならば、排除されてしまうからである。

したがって、「GCC Kids」は自分たちのかかげる保育の理念とその実践を維持発展させるためにも、「認可外」の保育園に向けられる懸念を十分に払しょくできるように、設備や環境を整えるとともに、「認可外」の保育園の基準を越えたスタッフ数は確保できているが、十二分なスタッフ数があるわけではない。そのために、保育園の出入り口はオートロックになっているとともに、教室や廊下などにはビデオカメラが設置され、子どもの安全が留意されている。また、1人ひとりのスタッフにとって十分な休息をとれる環境が整えられるだけでなく、残業時間のないかたちにして、気持ちよく職務が果たされると同時に、保育園全体としての機能が効果的に発揮されるように、組織的に効率的な勤務体制が構築されている（図表3を参照）。簡潔に説明すると、図表3には、11名のスタッフの曜日別の勤務時間が細かく示されている。灰色は勤務時間外（勤務していない時間）、白色は授業準備等の時間（Preparation Time）、青色は休憩時間であり、そして緑色は子どもと一緒にいて活動している時間である。白色の「0」の時間帯は、子どもに直接かかわっていないスタッフを示しており、もしどこかでスタッフを必要とする事が起きたときには、そのスタッフが駆けつけることになっている。

このような設備と管理・運営によって、「GCC Kids」は順調に営まれ発展してきているが、前述した理由により、しばらくは「認可外」の保育園として、特色ある実践を続けていくようである。

## 2. 「GCC Kids」の保育・教育の特徴

「GCC Kids」の設立理念は、GCC という名称に顕著に示されている。Gは、Global（地球の）を、CはCitizenship（市民権を持つ）を、CはCommunity（仲間集団）を示していることから、設立理念の大枠は容易に推察できる。有吉園長が提唱する「GCC Kids」の保育理念は、『2023 GCC Kids Handbook』においても、次のように記されている。

「自国への思いと私というアイデンティティを大切にしながら、  
皆が豊かな地球を創るための市民権（Global Citizenship）を持っていると考える。  
私たちはそういう仲間集団（Community）であり、  
GCCは、世界中の子どもたちにとって、より平和で、より美しく、  
よりワクワクする地球環境創りに貢献していく。」

このような設立理念をいわば志にして、「GCC Kids」に通う子どもたちが自立する頃には、今の大人たちが経験していないモノや考え方や環境が溢れていることを想定し、その時代を生

き抜ける力の基礎的な心構えとして、三つのグローバルマインド、すなわち「探究心 (Inquiring Mind)」と「共存共生の心 (Mind of Coexistence and Symbiosis)」と「自然を楽しむ心 (Mind of enjoying Nature)」が考えられ、実際的には「子どもの健全な発育・成長に欠かせない普遍的な保育」、「世界共通言語である英語教育」、「日本文化やマナーを学ぶ日本語教育」が重視されることになっている。そこには、次世代の社会においてはグローバル化の進展が前提としたうえで設立理念がいわば志として語られ、その社会で生き抜くための力 (心構え、あるいはマインドというべきもの) が三つ示されているが、それらの理念内容には「GCC Kids」の独自性が強く現れていると言える。

このような理念をベースにして、具体的な保育・教育の実践が考えられている。

まず、「GCC Kids」における子どもの生活についても、『2023 GCC Kids Handbook』の中に、次のような「基本的な日課スケジュール」が示されている (図表4を参照)。

次に、イベントについて言うと、毎月の行事としては、誕生日会、身体測定、避難訓練がある。また、年間の行事としては、入園式、春の遠足、七夕の集い、保育参観 (年2回)、夏祭り・懇親会、運動会、ハロウィン、秋の遠足、クリスマス会、正月遊び、節分豆まき、発表会、修了式、卒園式があげられる。もちろん、内科検診や歯科検診も年1回行われる。

このような保育園における子どもの生活を全体的に見れば、異年齢保育が定期的に日程の中に組み込まれている点の一つの特徴であり、とりわけ日本を含めて全体として七か国籍の子どもたちが交流することになる縮図は次世代のグローバル化した未来社会の先駆けを象徴している点では注目されるが、驚くほどの大きな特徴は日課スケジュール全体からは感じ取れないように思われる。その意味で言えば、「GCC Kids」の独自の特徴は、このスケジュールの中に含まれる時間割上のレッスンの活動内容に見て取ることができる。

「GCC Kids」の時間割については、ホームページ上に、年齢ごとに4つのクラスの2023年1学期に実施された時間割が公表されている (表5と表6を参照)。ここでは、2歳児クラス、3歳児クラス、4歳児クラス、5歳児クラス向けの時間割が用意されている。それらの時間割の構造は英語学習を重視している点で同じであるが、詳細にみると、発達に応じて、それぞれの時間割は微妙に異なって作成されている。

「GCC Kids」では、時間割の全体を概観すれば明らかなように、英語学習が重視されているが、その英語学習の方法として、ジョリーフォニックス (jolly Phonics) とクリル (CLIL) が取り入れられている。前者のジョリーフォニックスはイギリスの小学校教師によって開発されたものであり、2007年よりイギリスの小学校でも公式的な学習方法として導入され、視覚、聴覚、触覚、運動感覚など多感覚を使った英語の学習方法であるため、英語の読み書きの素地を確実に身につけることができるとともに、学習障害 (LD) の子どもにも効果があると言われている<sup>3)</sup>。特に、学べる5項目は、①基本の42音、②文字の書き方、③音をつなげて言葉を読む方

法（ブレンディング）、④聞いた言葉を文字に変換する方法（セグメンティング）、⑤42音とは別の読み方で、よく出てくる単語72語（トリッキーワード）であるという。現在、100ヵ国以上でその教材が使用されているが、日本でも、その効果は広く認められている<sup>4)</sup>。それに対して、後者のクリルとは、「Content and Language Integrated Learning」の略称であり、内容言語統合型学習と呼ばれている。EUの統合により、英語を母国としないEU加盟国では、母語に加えて共通言語としての英語を習得することが大きな教育課題となり、その対策として、1990年代からヨーロッパで始まった言語の学習方法がクリルである。そのクリルの方法の大きな特徴は、言語と内容を同時に学習することである。内容としてのテーマは、テキストのレッスンと関連するものが多いと言われている。この方法は、教える者と教えられる者にとって負荷をかけてしまうという欠点はあるものの、単なる語学だけを学んでいく学習法ではないために、子どもの視野を広めて、思考を深めるとともに、英語での対人コミュニケーションの多様な機会の提供によって、受容スキルや産出時の流暢さの向上、英語の使用への抵抗感を減少させる点などで、大きな効果を及ぼすと言われている<sup>5)</sup>。

2歳児クラスの時間割上の英語学習の方法（特に、15時で降園する「ショート」の子ども）に着目して見ると、ジョリーミュージック（Jolly Music）とジョリーフォニックスは、火曜日と木曜日と金曜日に10時から10時30分までというように、少しだけ行われる。それに対して、クリルは行われていない。3歳児クラスになると、ジョリーミュージックとジョリーフォニックスは、2歳児クラスと同様に週当たりでは30分3回行われるところに、週当たり30分2回のジョリーリーディング（Jolly Reading）が新たに追加されるとともに、クリルが新たに週当たり30分2回入ることになる。4歳児クラスになると、ジョリーミュージックとジョリーフォニックスは毎日行われるようになり、そしてジョリーリーディングの時間数も週当たりで30分3回に増え、新たにライティング（Writing）が週当たり30分2回入ることになる。それに対して、クリルは、週当たり8回に増えることになる。また、5歳児クラスになると、ジョリーミュージックとジョリーフォニックスは、4歳児クラスと同様に毎日行われ、ジョリーリーディングも4歳児クラスと同様に週当たりで30分3回行われる。それに対して、言語と内容を同時に学習することになるクリルは、週当たり2回増え、10回となっている。

このように、「GCC Kids」では、園のホームページで「ジョリーフォニックス学習プログラムで身につけた英語力をCLIL科目（Science, Geography, Art, Math, Global Studiesなど）を通して英語で上手にコミュニケーションができる力を養います」と謳っているように、二つの海外の学習方法を活用して、英語で自分の意思を上手に表現できる子どもに育てることが目指されているのである。しかし、そのような英語学習が行われるときには、もちろん子どもの中にはやる気を失い、その学習過程から離脱する子どもも出現するが、基本的に指導者はその子どもを叱って無理に学習させるのではなく、子どもが学習に戻ってくることを待つようにし



ている。もちろん、離脱時間が長くなる、あるいは危険なことや迷惑行為をするようになれば、指導者は注意をすることになっている。つまり、無理やり学習を子どもに強いることは、「自然を楽しむ心」を大切にすることの方針から言っても、避けられるのである。特に、このクリル科目の内容は、日本の幼稚園で扱う5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）を自ずと学ぶことになる。

以上、「GCC Kids」の特徴を述べてきたが、「GCC Kids」の「基本的な日課スケジュール」に見える1日の保育の流れについては、普通一般の保育園との大きな違いは見られない。ところが、時間割のレッスンの活動に着目して特徴を考えると、「GCC Kids」は認可外保育園の主なタイプの一つである幼稚園類似施設や幼児教育を特色とした施設に属していると考えられる。特に、海外において開発された二つの学習方法を取り入れるかたちで英語学習を重視している点は、認可保育園や認可外保育園という保育園の分類ではなく、幼稚園の分類に属すると言えるであろう。そのうえ、英語学習の時間だけでなく、英語や日本語を交えた異年齢で遊ぶ活動の時間、「L.I.F.E (Learning is fun & Empowering)」という英語を使った集団遊びや活動の時間（時間割における濃い青色の部分）、さらには日本語教育と日本文化活動を含めた日本語による時間（時間割における緑色の部分）も組み込まれている。英語学習以外にも、それらのレッスンも時間割に盛り込まれていることを考慮すれば、「GCC Kids」は、まるで早期教育に重きを置くエリート養成の幼稚園を彷彿させられる。つまり、時間割を額面通りに受け取れば、「GCC Kids」は早期教育と英語学習に重きを置くエリート養成施設なっているという解釈もできるであろう。

もし、「GCC Kids」がそのようであるならば、園の実践と園の設立理念や三つのグローバルマインドとの不一致が問われることになるであろう。現実の実践を見るかぎり、「GCC Kids」は、早期教育と英語学習に重きを置くエリート養成施設では決してなく、むしろ、三つのグローバルマインドの「共存共生の心 (Mind of Coexistence and Symbiosis)」と「自然を楽しむ心 (Mind of enjoying Nature)」が子どもに溢れていることに気づかされる。その点から解釈すれば、「GCC Kids」の実践は、早期教育と英語学習に重きを置くエリート養成施設であると思われるだけの学習環境を整えつつも、設立理念や三つのグローバルマインドを貫徹することによって、早期の知育に偏らないだけでなく、また養護と教育のために単に自由遊びや集団活動によって保育するだけでなく、グローバル化した社会を生き抜くための力を身につけるために、実際的には「子どもの健全な発育・成長に欠かせない普遍的な保育」、「世界共通言語である英語教育」、「日本文化やマナーを学ぶ日本語教育」を行おうとしているのである。このような点に、「GCC Kids」の保育・教育の大きな特徴が表れていると言えよう。

### 3. 「GCC Kids」の保育・教育における道徳性の育成

4歳児クラスを観察していると、「GCC Kids」の大きな特徴となっている英語学習では、「共存共生の心」を大切にしている意味でも、子どもが互いにかかわる場面が学習過程の中でしばしば出現していた。たとえば、教室の中に置かれているプリントや筆記用具を配布するとき、指導者が行うときもあるが、あるときには指導者が子どもを指名して、その子どもに配布させていた。配布してもらった子どもは、それを受け取ってお礼を言っていた。道徳教育の視点から見れば、「感謝」や「礼儀」という道徳的価値を学んでいることになるが、日常活動の文脈の中で「感謝」と「礼儀」という行為が自然なかたちで学ばれることになる。隣同士の子どもが教え合っているときも、道徳教育の視点から見れば、「親切」や「思いやり」という行為が自然なかたちで学ばれることになる。まさに、「機によりて徳が学ばれる」と言えそうな状況が見られる。このように、英語学習の過程という日常活動の中で、お題目や説教を言うのではなく、人間関係的な道徳性は自然なかたちで、着実に育成されていくことになる。そのような道徳性の小さな学びは、単に英語学習だけでなく、他の学習や活動の中でも同様に行われることになるであろう。

しかし、現実には、教室における学習や活動が順調に進むわけではない。時には、子どもの問題行動もさまざまなかたちで現れる。そのような時は、子どもを放任しておけず、叱る場面も出現する。その場面でも、単なるその時の場面だけの指導に終始するのではなく、むしろ道徳教育の良い機会と思い、指導者は道徳教育を自然なかたちで教えることになっている。

実際的なことで言うと、「GCC Kids」では、教室にいくつものポスターが壁に貼られているが、それが機を捉えた道徳教育の教具になっている。それらのポスターは、クラス開きの頃に、みんなで話し合って約束事ないしはクラスの規則として確認し合っている。たとえば、(写真1～3)のようなポスターである。

これらのポスターから、指導者はその場面に最も適切なものを臨機応変に選んで、子どもに説明すれば、そのタイミングの働きかけが的を射た道徳教育につながるのである。少なくとも、小中学校の授業においてしばしば批判されるわざとらしさの漂う道徳教育の要素は薄まることになる。何しろ、そこには、日常的な文脈がそこに存在しているために、社会生活によりつながった道徳性を生み出す想像力も高まるのである。もちろん、その際には、道徳教育だけでなく、そこには英語と日本語が明記されているために、それらの学習になることも言うまでもないであろう。その際には、道徳教育と国語教育と英語教育がつながり、領域(教科)を越えた横断的・総合的な学習が展開されるのである。

また、以上見てきた学習活動の場面だけではなく、「GCC Kids」では、給食の時間も、道徳教育に強くかかわっているとと言える。

「GCC Kids」では、給食の前には、基本的にスクールソングになっている「いただきますのうた (Thank you for the food)」を歌うことになっている。歌詞は、次のようになっている。

みんながおせきについたなら あしをそろえて せすじを“ピン！”  
きょうのランチにかんしゃして のこさずたべたら “ステキだね！”

When everybody takes a seat Put my legs together and sit up straight!  
Thanks for the lunch today It'll be wonderful if I can eat it all up

Let's put our hands together  
Three、Two、One! Thank you for the food!  
いただきます！

この歌詞をみると少し説教臭いところも見られるが、曲を歌うことで、その部分も薄まるのではないだろうか。そのうえで、「基本的な生活習慣」を身につけるといふ道徳教育が、国語教育と英語教育に加えて、音楽教育ともつながり、短時間ではあるけれども、領域（教科）を越えた横断的・総合的な学習が展開されることになる。とりわけ、道徳教育が他の領域と混在することで、道徳教育臭さが消えていくことは重要であろう。

「GCC Kids」の保育・教育の実践には、先駆的な英語学習の学習過程の中だけでなく、それ以外の学習や、給食時を含めたそれ以外の活動と日常生活の文脈の中から、いわばこの施設の醸し出す多文化的な雰囲気の中で、道徳性を浸透させたかたちで「基本的な生活習慣」の習得を含めた人格形成の基礎を培う幼児期の総合的な道徳教育の在り方が垣間見られる。

## おわりに

以上の述べてきたことから、「GCC Kids」の保育・教育における日常的で総合的な実践から紡ぎ出せる道徳教育の特質、換言すれば道徳性の育成の特質は、その施設における文化の日常的な文脈を大切にしながら、いわば心や頭の内面に留まる道徳性ではなく、日常の「基本的な生活習慣」の行為に浸透するような道徳性を培養している点に、見出すことができる。その点から道徳性の分析枠組みを検討するならば、日常の「基本的な生活習慣」の行為が着目されなければならないことに気づかされた。特に、挨拶をはじめ、お礼（感謝）や謝罪などのコミュニケーションとともに、みんなで合意したうえでの守らなければならない規則が幼児期の道徳性の育成にとって重要な鍵になっていた。したがって、本研究では、幼児に適ったコミュニケー

ションと規則に関する分析枠組みの必要性が、大枠において明確に見出されたといえる。

今後の当面の研究としては、「GCC Kids」の実践において、今回の研究で見出された点をさらに深めるとともに、他のいくつかの保育施設についても研究の対象を広げ、より客観性のある分析枠組みを見出していきたいと考えている。

## 謝辞

本稿は、科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般）：課題番号21K02342）の研究成果の一部である。

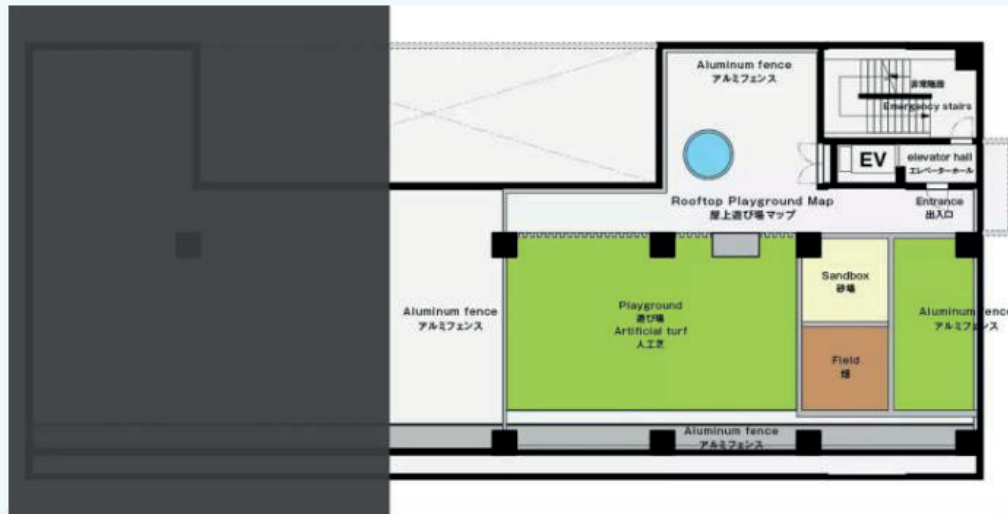
## <注>

- 1) Steiner,R., *Die geistig-seelischen Grundkräfte der Erziehungskunst*, Dornach, 1956, S.64.  
Steiner, R., *Der Goetheanumgedanke inmitten der Kulturkrise der Gegenwart*, Dornach, 1961, S.292.  
Steiner, R., *Die Erziehung des Kindes vom Gesichtspunkte der Geisteswissenschaft*, Berlin, 1921, S.26.
- 2) 保育・教育関係の書籍では、認可外保育園の存在そのものが問題であるという論調の記述が多く見られ、「認可外」と言うだけで認可外保育園に対する実践の評価が下げられている。例えば、「子どもの事故死の統計は、認可外保育施設に多いことが指摘されている」と批判的に述べられている（福川須美「認可外保育施設の運営をめぐる」日本保育学会編『保育講座2 保育を支えるしくみ—制度と行政—』東京大学出版会、2016年、29頁）。あるいは、「保育所の場合は、『認可外』という大きな問題も抱えている」と述べられた後で、「小学校には『認可外』という問題は生じない。幼稚園についても同様である。しかし、保育の領域では、『認可外』（従来は『無認可』と呼ばれていた）の組織が、少なからず存在する」という批判的な説明がなされたうえで、「条件整備論が、子どもの教育を受ける権利を保障するための全国的な一定水準の確保を目指すものである限り、こうした「認可外」の存在は大きな問題である」とまで、結論づけられている（藤井穂高「現代日本の幼児教育・保育制度改革の展望—条件整備論を中心に—」秋川陽一、藤井穂高、坂田仰編『幼児教育・保育制度改革の展望—教育制度研究の立場から—』教育開発研究所、2020年、2367-237頁）。
- 3) 「GCC Kids」では、ジョリーフォニックス公式研修センターであるJPTC (Japan Phonics Training Center) との協同により、自分の学園の子どもたちに適したオリジナルのジョリーフォニックス学習プログラムが構築されている。
- 4) 加藤茂夫、入山満恵子、山下桂世子、渡邊さくら「ジョリーフォニックス指導効果検証の試み—新潟県南魚沼市の取り組みから—」小学校英語教育学会編『小学校英語教育学会誌』20巻1号、2020年、272-287頁。
- 5) 安達理恵、阿部志乃、榎本洋子、北野ゆき、竹田里香、松延亜紀、安田万理「小学校でのCLIL 活動実践とその効果」小学校英語教育学会編『小学校英語教育学会誌』20巻1号、2020年、384-399頁。市

川新剛「CLIL 内容重視型教授法の特徴とその効果」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』第27卷（第1号）、2015年、51-57頁。



図表 1 3Fの平面図



図表 2 RFの平面図

認可外保育園「GCC Kidsインターナショナルスクール」における道徳性の育成


月曜日	7:00		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00	
	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0
A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水曜日	7:00		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00	
A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木曜日	7:00		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00	
A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図表3 スタッフの勤務スケジュール表

[2歳児]	
11:10	給食
12:00	睡眠
[3歳児]	
11:50	給食
13:00	睡眠(2学期まで)          午後のレッスン(3学期から)
[4歳児&5歳児]	
11:50	給食
13:00	午後のレッスン
14:40	サークルタイム(帰りの会) / ショートコース降園
<b>【ロングコース】</b>	
15:00	おやつ
English Activity・Japanese Activity・Indoor Activity・Outdoor Activity	
16:25	片付け
16:40	Free Activity
順次降園	
18:00	閉園


図表4 「基本的な日課スケジュール」

**TIME TABLE OF 1ST SEMESTER A 2023 SEA TURTLE (3歳児)**



	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
9:00	MORNING PREPARATION (朝の準備)				
9:30	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語であそぼう)				
10:00	OUTDOOR ACTIVITY	CULL (MATH)	OUTDOOR ACTIVITY	CULL (INTENSIVE ENGLISH)	イットリ / つたえ
10:30		JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS B		JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS B	
10:40					L.I.F.E LEARNING IS FUN & EMPOWERING
11:10					
	LUNCH BREAK				
12:00	NAP TIME (午睡)				
14:00	JOLLY READING B	JUMPING	JOLLY READING B	こたは / かず1	JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS B
14:30	PREPARATION/ CIRCLE TIME (帰りの会 / GOODBYE SONG&DANCE)				
15:00	SNACK TIME (おやつ時間)				
15:30	CLASS REVIEW & ACTIVITY (レッスン復習とクラス活動)				
16:00	CULL (SOCIAL STUDIES)	LIBRARY	CULL (S.T.E.A.N)	CULL (SCIENCE)	OUTDOOR/ GYM ACTIVITY
16:30	CLEAN-UP (片付け)				
	STORYTELLING (読み聞かせ)				
	GOOD BYE TIME				
17:00	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語であそぼう) / 帰次時間				
18:00					

**TIME TABLE OF 1ST SEMESTER A 2023 JELLYFISH (2歳児)**




	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
9:00	MORNING PREPARATION (朝の準備)				
9:30	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語であそぼう)				
10:00	OUTDOOR ACTIVITY	JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS 1	OUTDOOR ACTIVITY	JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS 1	JOLLY MUSIC B.JOLLY PHONICS 1
10:30		こたは / かず1		L.I.F.E LEARNING IS FUN & EMPOWERING	
10:40					イットリ / つたえ
11:10					
	LUNCH BREAK				
12:00	NAP TIME (午睡)				
14:30	PREPARATION/ CIRCLE TIME (帰りの会 / GOODBYE SONG&DANCE)				
15:00	SNACK TIME (おやつ時間)				
15:30	CLASS REVIEW & ACTIVITY (レッスン復習とクラス活動)				
16:00	LIBRARY	IC (VOCABULARY)	FINE MOTOR SKILLS	STORY/ READING TIME	OUTDOOR/ GYM ACTIVITY
16:30	CLEAN-UP (片付け)				
	STORYTELLING (読み聞かせ)				
	GOOD BYE TIME				
17:00	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語であそぼう) / 帰次時間				
18:00					

図表5 2歳児と3歳児の時間割




**TIME TABLE OF 1ST SEMESTER A 2023 DOLPHIN**



	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
9:00	MORNING PREPARATION (朝の準備)				
9:30	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語で遊ぼう)				
10:00	LIFE LEARNING IS FUN & EMPOWERING	LIFE LEARNING IS FUN & EMPOWERING	舞臺IV	LIFE LEARNING IS FUN & EMPOWERING	舞/習字
10:30	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV
10:40	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV
11:10	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV
11:20	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV
11:50	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV	舞臺IV
12:00	LUNCH BREAK				
12:40	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
13:10	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
13:20	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
13:50	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
14:00	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
14:30	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS IV
15:00	SNACK TIME (おやつ時間)				
15:30	CLASS REVIEW & ACTIVITY (レッスンの振り返りとクラス活動)				
16:00	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)
16:30	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)
16:50	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語で遊ぼう) / 随次帰園				
18:00					

**TIME TABLE OF 1ST SEMESTER A 2023 PENGUIN**



	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
9:00	MORNING PREPARATION (朝の準備)				
9:30	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語で遊ぼう)				
10:00	WRITING	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	WRITING	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	PE (体育)
10:30	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III
10:40	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III
11:10	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III
11:20	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III
11:50	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III	JOLLY MUSIC & JOLLY PHONICS III
12:00	LUNCH BREAK				
12:40	CULL (SCIENCE)	CULL (INTENSIVE ENGLISH)	CULL (SCIENCE)	CULL (INTENSIVE ENGLISH)	CULL (MATH)
13:10	CULL (SOCIAL STUDIES)	LIFE LEARNING IS FUN & EMPOWERING	CULL (SOCIAL STUDIES)	舞臺III	舞臺III
13:20	CULL (SOCIAL STUDIES)	LIFE LEARNING IS FUN & EMPOWERING	CULL (SOCIAL STUDIES)	舞臺III	舞臺III
13:50	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)
14:00	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)
14:30	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)	CULL (MATH)
15:00	SNACK TIME (おやつ時間)				
15:30	CLASS REVIEW & ACTIVITY (レッスンの振り返りとクラス活動)				
16:00	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)	CREATE (COLLABORATIVE PRESS ART) (10分)
16:30	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)	PREPARATION (帰りの準備)
16:50	PLAY IN ENGLISH OR JAPANESE (英語・日本語で遊ぼう) / 随次帰園				
18:00					

図表6 4歳児と5歳児の時間割



写真1



写真2



写真3

(よしだ・たけお 短期大学部教授)